レポート

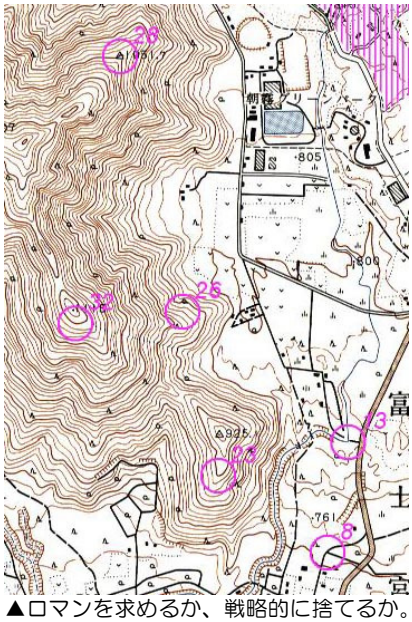
富士を望む二つのロゲイニングとスコアＯ大会

ＮＰＯ法人 Mnop　村越真

大自然にチャレンジ 朝霧ロゲイニング

2009 年 11 月 29 日

富士山の西麓に広がる朝霧高原の大自然を舞台に、今年も朝霧高原ロゲイニングが開催された。富士山西裾の広大な針葉樹林、天子山塊の急峻な山と森、そして日本離れした草原地帯。百戦錬磨のロゲイナーにとっても魅力的なエリアが広がっている。その一方で、歴史豊かな猪之頭地区やピクニック適地の田貫湖周辺など、初心者や子どもをつれた家族でも安心して楽しめる。トップアスリートから家族までが楽しめるのが朝霧ロゲイニングのもう一つの魅力でもある。



▲ロマンを求めるか、戦略的に捨てるか。今年初めて登場した天子山塊エリアは参加者をジレンマに誘う。朝霧にはまだまだ未踏のエリアが残る。

今年も、250 人を越える、最大規模の参加者が集まった。ロゲイニングの帝王・柳下や女王・田島から、地元の家族まで、多様な人々の参加を得た。

男子組を制したのは柳下大・渡邊千春ペア。２位の平井・和久田組とは 30 点の差だが、ＣＰ１つ分で、かろうじての勝利と、柳下の自己評価は厳しい。女子組は田島・伊藤組。２位とは 60 点以上の圧勝だが、最後は田島が伊藤についていけず、２分の遅刻。

混合では前年のチャンピオン篠原組が１点差でかろうじて優勝。クロマニオンズオリエンテーリング班など、強豪チームが目白押しの混合は、やはりロゲイニングの王道だろう。今や家族組も熾烈な戦いである。「家族はいかないだろう」とディレクターがふんだ山岳エリアを全部クリアした地元静岡の小島親子が混戦を制した。

新しいアウトドアの胎動

もともとこのイベント、2007 年度に県立朝霧野外活動センターが日本キャンプ協会に運営委託された時、キャンプ協会らしい行事を、ということで始められた。

土曜日には家族からアウトドアアスリートまでが楽しめるミニアドベンチャーレース、夜には翌日に備えた読図講習とともに、アドベンチャー界の一流講師たちによるスライドショーなども行われ、ロゲイニング同様、「初心者からトップアスリートまで」がイベントコンセプトである。

ナヴィゲーションスポーツの広がりという点でも、公立の野外活動施設のイベントのあり方モデルケースとしても注目されるイベントだ。

▲富士をバックに走るTEAM阿闍梨Wの田島利佳。有度山ロゲイニングにて。

里山に癒されて 有度山ロゲイニング

2009 年 12 月 20 日

奥武蔵のフォトロゲイニングに刺激されて学生とＯＢ対象に静大の裏山で３時間のロゲイニングを開催したら、思いの外好評で 50 人以上も集まった。シリーズ戦をきっかけに日本平全山にエリアを広げ、５時間ロゲイニングにした。準備で入れば入るほど、周囲 20km、標高たかだか 300m の有度山の奥深さが分かる。里山の魅力を多くの人に知ってほしい。そんな思いから成長したのが有度山ロゲイニングだ。前日にはやはり有度山で、トレランミニレースが開かれる複合イベントである。

朝霧ロゲイニングが終わった時、「今度は地の利で勝てるんじゃない？」と平井に振ったら、ノーコメントだった。この有度山は朝霧男子組２位の平井・和久田の母校静大の地でもある。地の利なのか、それとも「山のエリアは前回ミスして、トラウマがあったんで、避けたんですよね」という平井の作戦が功を奏したのか、男子組では常勝柳下と高橋のペアを、平井・和久田組が 60 点以上押さえて圧勝だ。有度山は低い割には起伏が激しく、地形図では森の中の小径もトレースすることは熟練者でも難しい。そのあたりをすっきり割り切ったことが平井・和久田の大きな勝因だろう。

女子組では田島･伊藤組が朝霧についで優勝した。特に伊藤は必ずしもベストな体調でなかっただけに連覇は貫禄だ。

特筆すべきは混合の大澤・渡邊ペア。539 点は男子組を上回る得点だ。地力だけでなく、作戦の要素も関係するロゲイニングの奥深さが見てとれる。

家族組の争いは熾烈だった。１位は Team Heart Golds 上田ファミリー、２位に高野ファミリーのチワワーズ、３位に出からし茶の小島ファミリー。いずれも朝霧の上位を争ったチームである。

▲朝霧では優勝、有度山では３位となったチーム出からし茶の小島ファミリー。やぶの中ではお父さんが子供を担いで進む。

今年も賞品は田島・柳下へ

有度山ロゲイニングで、2009 年のシリーズ戦は終了した。５月の乗鞍から始まり全 10 レース。総計で 1300 名を

越える参加者があり、そのうち２／３程度がオリエンテーリング未経験者だと推定されている。
各レースで上位に与えられるポイントからよい方を５レース合計したポイントで競うシリーズ戦では、男女とも田島・柳下が２連覇を飾り、協賛カシオ計算機より提供されたアウトドアウォッチプロトレックを手にした。

シリーズチャンピオンは語る

●柳下大

2 人とも走れてナビゲーションもできる最強ペアを自負していたのですが、負けてしまいました。有度山の地図を見直すと、今回はベストのルートではなかったかなと感じています。
しかし、海岸沿いは追い風になる西→東にこだわり過ぎたこと、山エリアは早いうちに片づけたかったと、いうのがこのベストルート（あるいは逆まわり）を選べなかった理由です。
15 で大きくミスし（見えずにスルーしてしまった）15 分ほどのロス。実際は今回のまわり方でもこのミスとその他の小さいミスがなければ 35-7-17-16 をとることは可能で、作戦としては大きく間違っていなかったと思います。しかしそこまで完璧に走るのは難しい。650 点満点で 600 点を獲得した優勝チームは素晴らしいと思います。

シリーズ戦については、まず 2 年連続のシリーズチャンピオン、光栄に思います。各大会の主催者の皆さんどうもありがとうございました。レースとしては乗鞍が距離も短めでＯＬの強豪選手も多かったので、一番厳しかったと思っています。
会心の出来だったのが霧ヶ峰で、これは昨年のリベンジを果たすことができました。ロゲインには個人戦とチーム戦があります。私はどちらも面白いと思っています。個人戦は自分の基礎的な実力を試すことができます。一方チーム戦は作戦を話しながらであったり、途中現れるきれいな景色やすごい藪など、小さな冒険を共有できます。
特に後者の部分がロゲインの大きな魅力なのではないのかな、とも感じています。
今年は全勝を狙っていたのですが、そう簡単にはいきませんでした。来年度に課題が残ったので、これをモチベーションにして頑張っていきたいと思います。

●田島利佳

どのスポーツも発展させるのにスターは必要、ロゲイニングの帝王いるなら女王もいたほうがいいんじゃないかしら、じゃあ私がなるわ！と半分冗談、多くは自分が所属しているTEAM阿闍梨のイベント開催のための参考に、またナビゲーションの広がりやオリエンテーリング導入のヒントに何か役立てられるのではないかと、全 10 戦のうち 8 戦参加してきました。そのせいでチャンピオンになったのかもしれませんね。
来年以降、より良いシステムでチームもしくは個人のランキングができたらいいなあと思います。
各大会は、主催者によってカラーがありました。何かしら統一すべきイベントのガイドラインが必要で、まだ新しいアウトドアスポーツなんだろう、というのが参加してみて感じたことです。
来年は、いよいよロゲイニング世界選手権(ニュージーランド)、24 時間の競技にチャレンジします。オリエンテーリングをしてきて、そのスキルを生かしたアウトドアスポーツを楽しむことができるのはとても嬉しいことです。

日本平清水区民スコアＯ

2009 年 12 月 12 日

たった 40 分のスコアＯに遠く神奈川、三重からも参加者が・・・。
地元の知り合いを通して、幼稚園の行事としてオリエンテーリングを実施してほしいという依頼があった。場所は有度山東麓、サッカーの清水エスパルスのホームグラウンド日本平運動公園のすぐ隣である。公園の高台に登ると、富士山が正面に大きく見える。先方の都合で、有度山ロゲイニングの前週 12/12 の実施となった。地図は新規に作るものの、自分としては有度山の前座くらいのつもりでいた。
幼稚園の行事の方は残念ながらインフルエンザの蔓延により中止になってしまったが、併設で行う予定だった区民大会に園児とその家族も自由参加できるよう、幼稚園側の計らいでビラを配らせてもらった。それによる参加者が約 35 名。こんなものかなと思ったが、園長先生によると昨今のイベントとしては集まった方だという。
事前申し込みのあった一般と加えて約 40 人と見込んで地図を用意したが、当日受付を始めると、申し込みのなかった一般参加者が続々とやってきた。オリエンティアの奥村さん、五十嵐さんには驚かなかったが、地元のアウトドア好きな方たちに混じって、トランスジャパンにも出場したウルトラアスリートの宮崎ファミリーや飴本ファミリーが現れたのにはびっくりした。富嶽周回で配布したＡ５のちっぽけなビラを握りしめて飴本さんがやってきた時には、感無量であった。

子どもが小さいアウトドアアスリートやアウトドア好きのお父さんお母さんたちは、できれば家族で一緒にできる活動に参加してみたいと考えているのだろう。ロゲイニングにしてもスコアオリエンテーリングにしても、そうしたニーズにぴったりあっているようだ。参加者は総計 78 人。潜在的なオリエンテーリング人口はまだまだあるのかもしれない。そういう人たちに、質の高い楽しいイベントを提供することは、オリエンティアの重要な任務といえるだろう。

当日は、12 月とは思えない好天に恵まれ、半袖でも走ると暑いくらいだった。あいにく当日は園の南側にある日本平運動公園でサッカー天皇杯準々決勝が開催されたため（日程を決めた時にはまだ決まっていなかった）、公園内とその南の農地改良されたエリアを使うことができなかったが、それでも参加者たちは 40 分間めいっぱい走り、初冬の静岡を楽しんでいった。

▲トランスジャパンでも完走するスーパーアスリート飴本さん一家は神奈川からこのイベントのためにやってきた。

家族連れでのんびり楽しむ地元ファミリー

（村越 真）